

異邦人

知っておきたいキリスト教のことば (18)

「子どもたちが空に向かい、両手を広げ…」。「異邦人と聞くとこの歌のフレーズが頭に浮かぶ方は、わたしと同じ世代でしょうか。この歌を歌ったシンガーソングライターの久保田早紀さんは現在、久米小百合という名のゴスペルシンガーとして活躍されています。「異邦人」



」を作詞した頃の彼女はクリスチャンではなく、またその曲のタイトルも元は「白い朝」だったそうです。「異邦人」というタイトルは、神秘的なイメージを醸し出すためにつけられたものです。

それはともかく異邦人とは、「外国人」という意味の言葉です。しかし聖書の中では、「非ユダヤ人」、「非イスラエル」の総称として用いられます。

ユダヤ人には、自分たちは神さまとの契約によって立てられた民であるという強い自負がありました。それだけならよかったです。割礼を受けていない異国民を蔑視していたのです。つまり彼らを何の特権も与えられていない民だとして、見下していたのです。こうしてユダヤ人は、自分たち以外の民族を「異邦人」と称し、宗教的祭儀から排除するだけではなく、交際はおろか共に食事をすることも禁止していくのです。

しかしイエス様は、確かにほとんどの宣教活動はユダヤ人が対象ですが、ご自分の元に来る異邦人を拒むこともしませんでした。

イエス様のその姿勢を知ったパウロは、ローマの信徒への手紙 3 章 29 節にこう書きます。「それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもないのですか。そうです。異邦人の神でもあります。」

イエス様を通して神さまの恵みは、「異邦人」であるわたしたちの元へも、届けられるようになったのです。

次回は「癒し」です。お楽しみに。